



松本城の七変化 中田 清和

松本城は春、夏、秋、冬、四季折々いろいろな表情を見せてくれる。早春には梅の花が最初に目覚め、四月には桜の花に囲まれ、木々の新緑がまぶしくなる。五月には小笠原ボタンが咲き華やかな雰囲気醸し出してくれる。国宝松本城は鳥城と呼ばれるくらいだから、全体が白と黒でおおわれているから、やはりあでやかな花が似合うと思う。朝や昼の光が松本城に反射して、いろいろな変化を楽しませてくれる。

又空が青空だったり、曇りがちだったり、すると松本城は着かえをしないのに、装いが違ってくる。朝焼けするとき、夕やけするときには特に松本城はうつくしくなる。特に夕焼けにも橙色系の時と黄金色の時があるが、黄金色のときは松本城の西側の方が、黄金色に輝いて、それはこの世のものとは思えないくらい眩しい松本城が出現する。

掲載の写真のように、朱色の橋が松本城にはよく似合う。赤色が少ない松本城の中にあって、存在が大きい。又松本城のエリアには自然が残されていて、住人の白鳥はもちろん鴨たちがお堀にきて羽を休め、公園の森にはいろいろな鳥が来て、さえずっている。そして毎日の公園内の散歩をたのしみに行っている人たちがいる。

市街地の中でこれだけ広い公園は数少ないので松本城の周りの環境の保全は大事なことだと思う。「国宝松本城を世界遺産に」の推進運動には、周りの自然環境をも一緒に考える必要がある。そしてそのことを市民が参加、支持していくような運動にしてゆくのがいいことではないだろうか。

「国宝松本城を世界遺産に」エッセー

平成二十年十一月吉日